

定額乗合交通「きらり号」の実証実験について（現状と今後の方向性）

1. 定額乗合交通「きらり号」実証実験の概要

(1) 背景と目的

本実証実験は、公共交通空白地域の存在やタクシー事業所の撤退、少子高齢化による人口減少の進行による公共交通の利用者減少が大きな課題となっている鳥取市気高町・鹿野町において、月額定額制乗合交通の実証実験を行い、高齢者等の移動活発化や、事業性を確保した持続可能な地域交通実現に向けた検証を行うためのものである。

(2) 運行内容とこれまでの経緯

- 当初の実証実験期間は令和5年3月末までであったが、事業の継続や採算性、既存の公共交通機関を「きらり号」に転換できる利用者数を確保できていない状況にあった。
- このことを踏まえ、令和5年3月2日に「気高町・鹿野町地域生活交通協議会」にて、本事業の関係者と地域住民が今後の方向性について協議した結果、新型コロナウイルス感染症の影響や地域住民の認知不足等も考えられるため、実証実験期間を令和5年9月末まで半年間延長することとした。
- 現在は利用者数の確保や町内の移動ニーズに対応するために、令和5年5月から運行区域や運賃等を見直して運行を行っている。また、利用者（登録者）の増加に向けて、利用促進の働きかけを行っている。

事業の種別	一般乗合旅客自動車運送事業（区域運行）
輸送の形態	予約があった場合、利用登録者の自宅と目的地間等を最適経路で運行（事前の利用者登録により自宅の位置等を把握）
愛称	定額乗合交通「きらり号」
運行事業者	有限会社サービスタクシー（事業主体）
車両	運行事業者が使用する車両（1台を使用）
運行日・運休日等	月曜日～金曜日（平日）運行 土日祝日及び年末年始（12/30～1/4）は運休
運行区域	気高町・鹿野町全域（令和5年5月より拡大）
運行時間帯	9：00～16：00の間で、利用者の予約に応じて運行
運賃	【月額運賃】 1人につき3,700円/月 世帯内で2人目以降は1人につき1,000円（1人目は3,700円） 【片道運賃】 1人につき1,000円/回（令和5年5月より運用）
予約方法	乗車の1時間前までに利用者が電話により予約 電話予約の受付時間は7：00～17：00
実証運行期間	令和4年10月3日～令和5年9月30日
その他	運行経費の一部に対して鳥取県と鳥取市が支援

(3) 実証運行に係る主な取組状況

令和4年	運行開始前 10月	<ul style="list-style-type: none"> ● 運行開始前の利用案内での周知（8月～10月） ● 周知等も兼ねたテスト運行の実施（9月） ● 新聞・テレビ等の報道（10月以降随時対応） ● 各総合支所から自治区長や高齢者施設への案内・声掛け（10月以降随時実施） ● 道の駅西いなばや施設等へのポスター掲出
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 周知資料「きらり号通信」（利用方法や利用者の声等）の配布
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ● 気高町・鹿野町生活交通会議での状況報告 ● 温泉施設での特典付与に係る調整 ● 周知資料「きらり号通信」（1月の見直し内容等）の配布 ● 利用案内の再配布
令和5年	1月	<ul style="list-style-type: none"> ● 1世帯につき4枚の1日無料券配布によるキャンペーンの実施 ● 大字鹿野や八束水地域への運行範囲の拡大 ● 世帯内2人目以降の運賃見直し ● 周知資料「きらり号通信」（利用状況等）の配布
	2月	<ul style="list-style-type: none"> ● 周知資料「きらり号通信」（運行内容等）の配布 ● 地域内の商業施設での特典付与に係る調整
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 周知資料「きらり号通信」（運行内容等）の配布 ● 気高町・鹿野町生活交通会議、鳥取市生活交通会議（書面協議）での状況報告、運行内容見直しと実証運行延長の決定
	4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 周知資料「きらり号通信」（運行内容等）の配布 ● 利用案内の配布等、運行内容見直しに向けた周知活動
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ● 周知資料「きらり号通信」（運行内容等）の配布 ● 鹿野町・気高町全域での運行区域拡大【5/8（月）より運用】 ● 1回当たりの片道運賃の運用【5/8（月）より運用】
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 周知資料「きらり号通信」（運行の案内等）の配布 ● 利用案内の配布等、運行内容見直しに向けた周知活動 ● 気高町鹿野町の地域生活交通会議委員を通じた地域住民へのアンケート調査票の配布
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 周知資料「きらり号通信」（運行の案内等）の配布 ● 利用案内の配布等、運行内容見直しに向けた周知活動

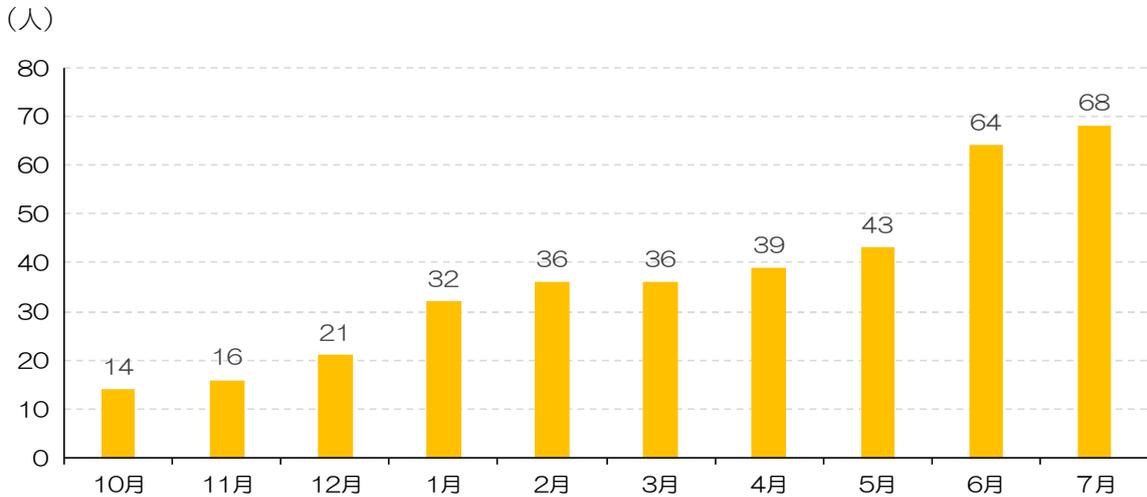
2. 現在の利用状況

(1) 集計概要

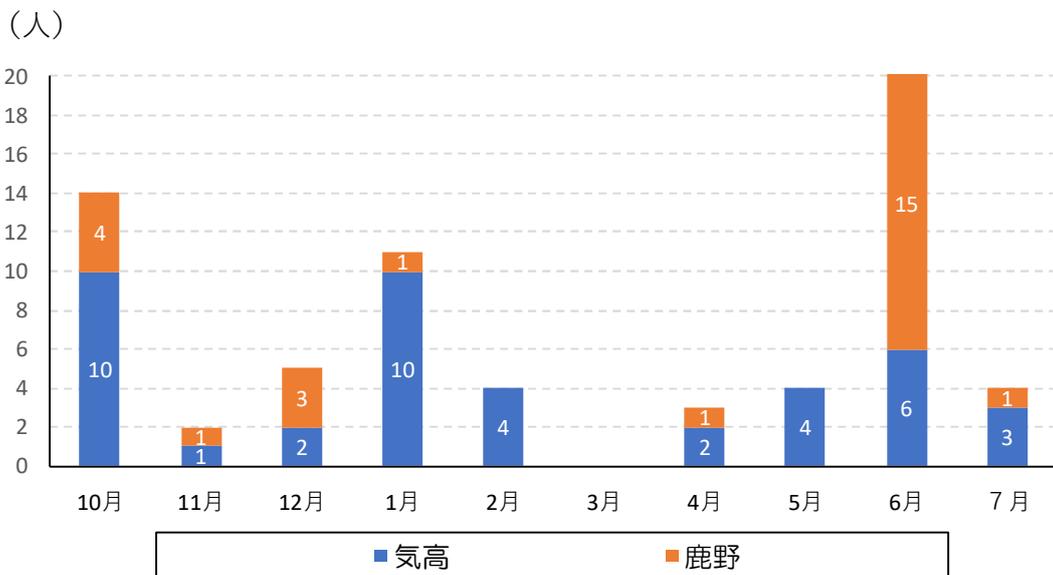
集計期間	令和4年10月1日～令和5年7月31日（10ヶ月間）
対象データ数	1,259件 ※予約配車システムに登録されていないデータは除く

(2) 利用者登録状況

- 利用登録者は7月時点で68人（8/15時点では71人）、うち気高町では42人、鹿野町では26人が利用登録を行っている。
- 月別の利用者新規登録状況を見ると、周知等の効果により6月（半ば時点）の利用登録者が大きく増加しており、特に鹿野町河内等の既存の気高循環バスを比較的使いにくい地域からの登録が増えた。



図表 月ごとの延べ登録者数推移

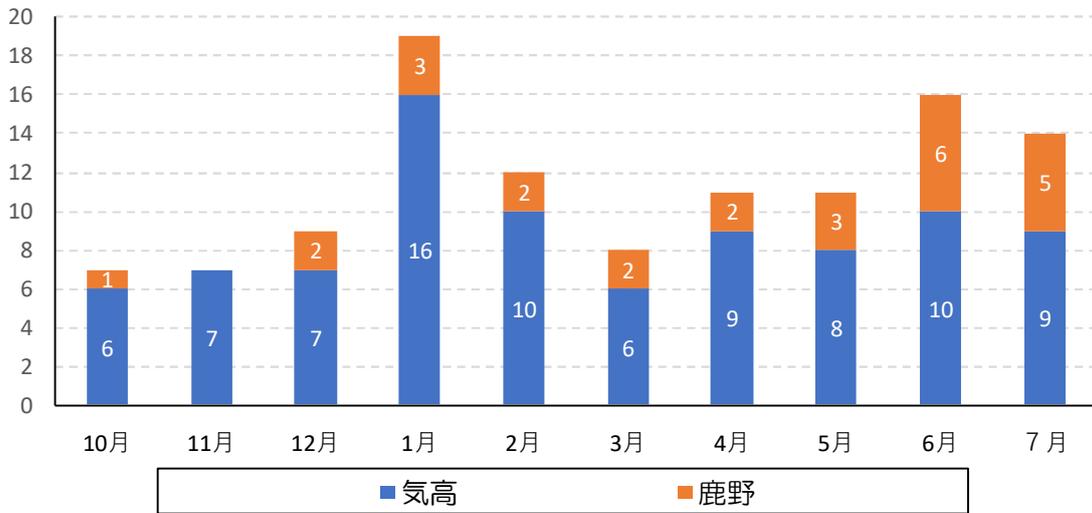


図表 新規会員数の推移

(3) 実利用者数・利用回数

- 実利用者数（利用者登録をした人のうち実際に利用している人）について、7月は14人となり、運行区域を拡大した5月以降に伸びは見られるものの、大きな増加は見られなかった。
- 地区別では、浜村地区が登録者や利用経験者（実利用）ともに比較的多く、5月に運行区域となった瑞穂、宝木、酒津、小鷲河地区では利用登録者は見られるものの、利用経験者は5人程度で利用登録者と利用経験者の数は乖離が見られる。（特に鹿野町でその傾向が顕著）
- 1人あたりの平均利用回数は10回を超えており、きりり号の使い方が浸透しヘビーユーザー（ほぼ毎日利用している人）の利用回数は増加傾向である。

(人)



図表 実利用者数の推移

地区	利用登録者数 (人)	利用経験者数 (人)	利用登録者数に対して利用経験者数が占める割合
浜村	20	16	80%
逢坂	8	6	75%
八束水	5	2	40%
瑞穂	4	2	50%
宝木	4	2	50%
酒津	1	0	0%
計	42	28	67%

地区	利用登録者数 (人)	利用経験者数 (人)	利用登録者数に対して利用経験者数が占める割合
勝谷	8	3	38%
鹿野	4	3	75%
小鷲河	14	1	7%
計	26	7	27%

図表 地区別の利用登録者数と実利用者数

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
実利用者数(人)	7	7	9	19	12	8	11	11	16	14
延べ乗車回数(回)	68	93	117	112	125	127	129	155	177	156
1人あたりの平均利用回数(回)	9.7	13.3	13.0	5.9	11.3	15.9	11.7	14.1	11.1	11.1
1人あたりの最高利用回数(回)	33	48	46	26	24	31	30	46	46	39
1人あたりの最低利用回数(回)	3	1	2	1	4	8	3	1	1	2
【参考】最高利用回数を除いた平均利用回数(回)	5.8	7.5	8.9	4.8	7.7	13.7	9.9	10.9	8.7	9.0

図表 月別利用状況

(4) 施設別の利用状況

- エスマート気高店までの利用が最も多く、全体のおよそ3割を占めている。
- 4月までは全体的に医療機関よりも浜村町内の買い物先や歯科医院への移動が多かったが、5月以降は鹿野町内の医療機関への移動も一定数見られるようになった。

乗降場所	乗降人数(人)										
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	合計
エスマート浜村店	23	22	44	15	27	35	28	47	43	41	325
喫茶あすなろ							20	16	13	17	66
ジュテンドー浜村店	6	16	5	2	4	4	8	6	5	4	60
原田フードセンター		3	6	3	6	11	12	6	7	5	59
北浜歯科クリニック	3	4	7	8	6	6	4	4	7	5	54
道の駅西いなば気楽里	2	7	6	12	2	2	2	6	7	8	54
民宿 旅人	5	11	16	7	1		3	3	3	2	51
JR浜村駅	2	1	3	3		1	7	12	10	9	48
乾医院		4	3	2	3	2	6	2	10	8	40
よねだクリニック	3			2	2	3	4	8	6	7	35
鹿野温泉病院		4		2		2		16	2	6	32
すどう歯科医院					8	10	4		3	6	31
稲垣歯科医院	2	12	5	2					7		28
浜村診療所				1	2		6	6	6	4	25
ウェルネス気高店	3	3			2	2	3	4	4	2	23
気高町総合支所	4		2	2	3	2	4		2	2	21
いなだ歯科医院		1			2	6	6	4	2		21
浜村地区公民館・気高町総合福祉センター	2	2		2	2		2	1	5	4	20
ホットピア鹿野			10	4	1			2		2	19
宝喜温泉館									9	10	19
トナカイ	2		3	5	1				4		15
農業者トレーニングセンター(鹿野)	4			4	1				4		13
山紫苑	2			4					2	4	12
鹿野町総合支所						4	4	4			12
鳥取銀行浜村支店	3			1	2		2		2		10
鹿野郵便局						3	2		2	2	9
鹿野往来交流館童里夢	2	2	2			2					8
浜村郵便局	2	1		1				2			6
鹿野おもしろ市場			4	1							5
ようこそ亭				2				2			4
気高図書館										2	2
谷口商店						2					2
のどかの家	1	1									2
農業者トレーニングセンター(気高)									1		1
上光コミュニティーセンター								1			1
JR宝木駅								1			1
宝木地区公民館									1		1
計	71	94	116	85	75	97	127	153	167	150	1,135

図表 目的地別の乗降回数

(5) 時間帯別の利用状況

- 2月以降は午前10時台前後に利用が集中している。
- 実証期間全体で見ると、午前10時台、午後は14時台の利用が多い。

時間帯	乗車人数(人)										
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	合計
8時台	0	3	0	2	1	3	3	4	4	1	21
9時台	13	21	13	17	16	16	27	31	25	24	203
10時台	12	18	20	13	31	39	32	37	51	41	294
11時台	9	13	14	26	21	21	26	15	29	22	196
12時台	4	7	9	11	9	8	7	9	13	15	92
13時台	12	11	23	14	5	7	8	15	16	11	122
14時台	9	13	25	15	20	6	9	16	19	18	150
15時台	9	7	13	9	16	12	5	18	13	15	117
16時台	0	0	0	5	6	15	12	10	7	9	64
計	68	93	117	112	125	127	129	155	177	156	1,259

図表 時間帯別の利用状況

(6) 利用パターン

- 居住地から施設（設定した目的地）までの利用がおよそ8割を占めている。
- 10月～12月は施設への移動がほとんどを占めていたが、1月から居住地間の移動、4月から駅やバス停までの移動が見られるようになった。

移動パターン	乗降人数(人)										
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	合計
居住地間			5	27	50	31	7	9	18	13	160
居住地⇄施設	63	91	105	82	75	94	111	126	141	128	1016
施設間	3	1	4			1	4	7	8	6	34
バス停・駅	2	1	3	3		1	7	13	10	9	49
計	68	93	117	112	125	127	129	155	177	156	1,259

図表 利用のパターン

(7) その他の運行状況

- 現時点でも少ないものの運行開始当初に比べ、乗合利用の発生回数や乗合率は増加傾向にあるものの、乗合ではなく個別輸送で運行するケースが多い。
- 運行1回あたりの平均距離については、エリア拡大した5月以降増加している。

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	全体
平均乗車人数(人/回)	1.1	1.1	1.2	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.2	1.4	1.3
乗合発生回数(回)	6	8	15	12	12	19	22	25	22	27	141
乗合率	9.8%	9.5%	15.0%	14.0%	11.4%	19.4%	22.9%	20.8%	15.4%	23.9%	16.7%
運行1回あたりの平均距離(km)	3.8	3.1	3.3	3.8	4.1	3.5	3.8	4.9	4.7	5.3	4.7

図表 稼働状況・乗合の状況・運行距離情報

3. 今後の方向性

(1) 実証実験の状況報告（まとめ）

- 利用登録者は大きく増加したものの、実際に利用している人の人数については大きな伸びは見られない。（利用登録者と実際の利用者の中で大きな乖離が見られ、事業成立の目安としていた 100 名程度の利用者確保は難しい状況）
- また、本年 5 月より運行を拡大した地域においても利用登録はあるものの、実態に利用している人は少ない。
- 利用者や利用回数が増えるにつれ乗合での利用が増えている。ただし、現状では個別輸送に近い状態でエリアを限定したタクシー車両による輸送になっている。
- 利用しない理由として、アンケートでは自分での運転や送迎といった自家用車利用が挙げられている。また、自由意見でも「移動に困っていない」という声がある一方で、循環バスの充実や共助交通の検討等、きらり号（乗合タクシー）以外にも様々な意見が見られた。（アンケート調査結果参照）

(2) 今後の取組案

- 実証実験期間を延長し、運行範囲や運賃の見直しのほか、利用促進に取り組んだものの、現状の利用状況では、「きらり号」が当該住民にとって必要な移動手段であるとは言いがたく、また、採算性確保に課題があることから、現在の輸送形態では事業継続は困難であると判断される。よって、予定どおり 令和 5 年 9 月 30 日をもって「きらり号」の実証運行を終了する。
- 一方で、この実証実験を通じて、利用者の移動に対するニーズや移動に困っている人の状況、気高町・鹿野町エリアでデマンド乗合交通の運行や定額運賃を導入する上での課題等を把握できた他、高齢者の移動回数の増加や地域で生活交通を盛り上げる機運の醸成が図られた。
- このことから実証運行終了後に本実験の結果を再度整理し、今後の気高町及び鹿野町における生活交通のあり方（生活交通確保策や交通空白地の対策）について、気高循環バスの見直しや共助交通の導入を含めて、気高町・鹿野町地域生活交通協議会等を通じて検討を進めていく。

（8 月 18 日開催の気高町・鹿野町地域生活交通協議会にて報告）

4. 今後のスケジュール（案）

8 月下旬～	地域住民への実証運行終了に対する周知 （各支所より地域住民に文章・チラシを配布）
9/29（金）	「きらり号」の実証運行終了
10 月以降～	実証運行の結果検証（気高町・鹿野町地域生活交通協議会等） 地域住民へ実証運行の結果報告 気高町及び鹿野町的生活交通の方向性について検討

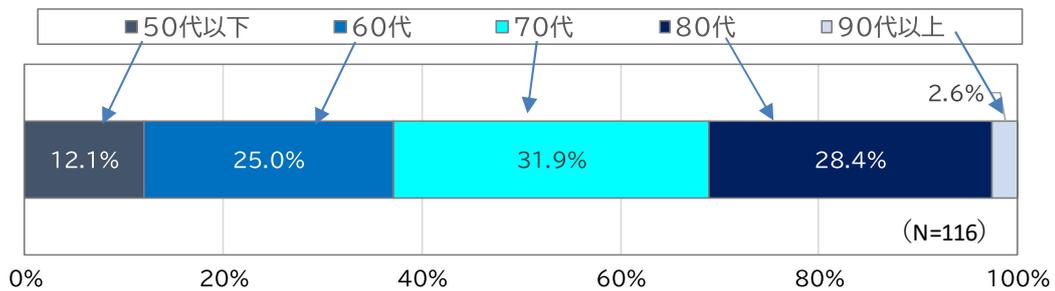
【参考】アンケート調査結果

(1) 調査の概要

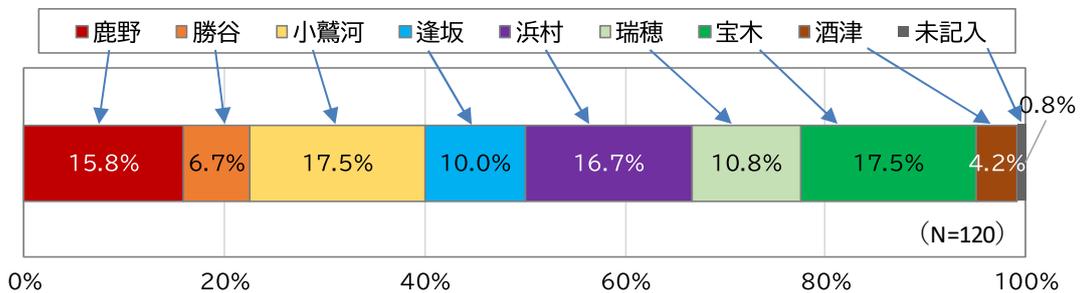
実施方法	総合支所で作成したアンケート調査票に対して、気高町鹿野町地域生活交通会議の委員から各地区の住民に配布し、各委員を通じて回収
回収数	121部 (気高町委員回収分：59部、鹿野町委員回収分：62部)
実施時期	令和5年6月下旬～7月

(2) 回答者の属性

- 回答者の多くが60歳代以上で、うち70歳代以上が60%程度を占めている。
- 気高町・鹿野町の各地区から一定の回答が得られた。



図表 回答者の年代

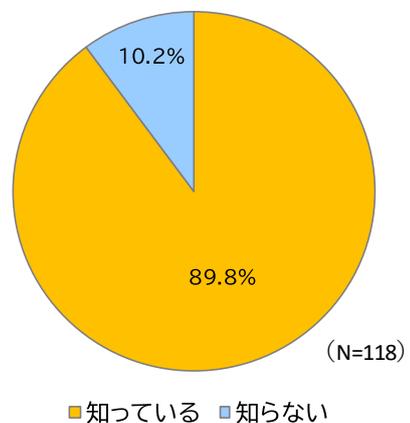


図表 回答者の居住地域

(3) きらり号の認知度・利用状況・利用しない理由

(ア) きらり号利用の認知度

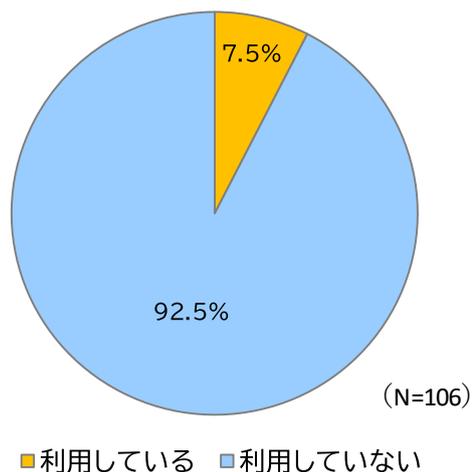
- 回答者のおよそ90%がきらり号を認知している。
- きらり号を知らない人のうち5人は「利用してみたい」と回答している。



図表 きらり号の認知度

(イ) きらり号の利用の有無

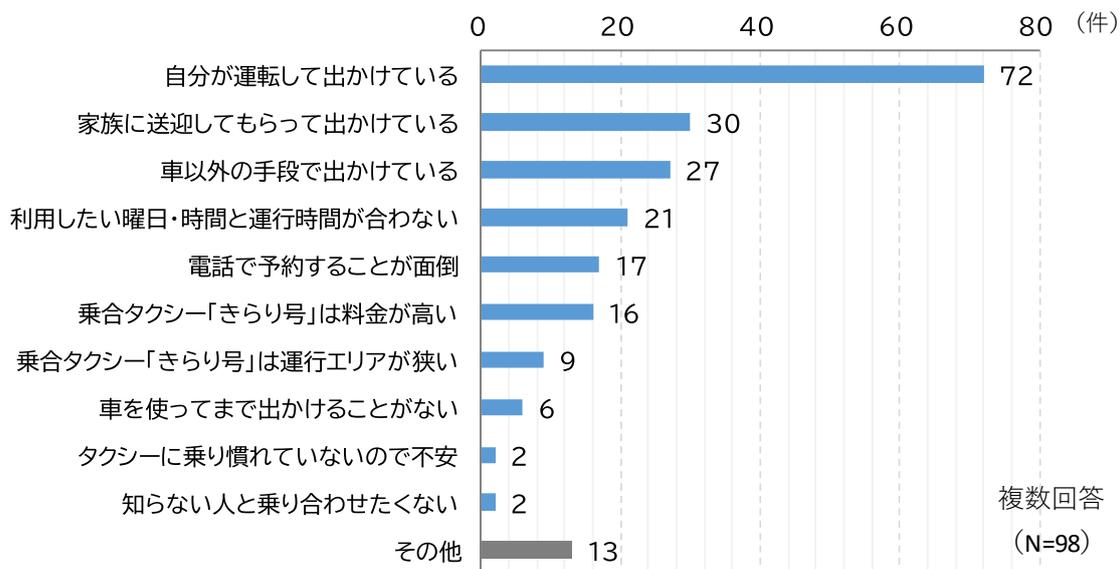
- 回答者の90%以上がきらり号を利用していない。
- 回答者のうち、きらり号を利用している人（利用したことがある人）は7.5%で、実数では8人であった。



図表 きらり号の利用状況

(ウ) 利用していない人の利用していない理由

- 利用していない理由として最も多い回答は「自分が運転して出かけている」だった。
- 「利用したい曜日・時間と合わない」「料金が低い」「運行エリアが狭い」等、きらり号のサービスに関する回答も見られたが、上位には位置していない。



図表 きらり号を利用しない理由

(4) 将来も地域で生活をするために必要な移動手段（自由意見）

次の問いかけにより地域の生活交通に対する意見を募集した。

今後人口減少が進むと、病院や店舗が地域から減少する可能性が高くなりますが、民間の交通事業者は運転手不足や採算が合わないため、縮小・撤退の一途をたどっています。どのような交通手段があれば、将来も地域で生活していけると考えますか？

- きらり号に対する意見は全体の 25%程度を占めている。
- 気高循環バスの維持・充実や地域主体の移動手段（共助交通や自家用車のあいのり等）についても一定の意見が集まっている。
- また、今は移動ができており、不便や困りごとは特にないという意見も一定数見られる一方で、その中では将来については不安を感じている人もいる。

《以下、意見一覧》※原文ママ

きらり号（乗合タクシー）に対する意見【回答件数：12 件】
きらり号盛り上げたいけど、町の中は自転車ですし。
一人暮らしの人は助かると思う。今後不安を感じる。
きらり号（サービスタクシー）の電話番号シール等を作って希望者に配ってほしい。電話の所に貼っておきたい。
冬場に利用していた。これからの季節夏にも利用したいです。
乗合タクシーが最良だと思うが旧市へも運行エリアを広げたら少しは高くても利用する。
乗合タクシー以外に考えられません
車に乗れなくなったらきらり号を利用するかもしれない。良いと思うが予約が面倒くさい。循環バスも良いが土日祝が無いので残念。
現在、きらり号の利用者数が少なければ今回は見送り。5 年後、10 年後にもう一度住民に意見を聞いて再度取組んでどうか。高齢者が免許返納されてから困る事は通院方法です。当面、循環バスを小型にして朝・昼・夕と 3 便往復する等、対応できませんか。
料金が安いのであれば（利用したい）
今後の高齢化の事を考えるときらり号は必要。現在、必要ない人が免許返納した時に利用する仕組みが必要。今免許ある方が乗ってみたいという気持ちになるような価格設定や利用しやすい提案があればいい。例）アンケート回答者には格安にする等 きらり号は存続して頂きたいです。現在、車の運転ができる為、利用する予定がない。ただし 10 年後には免許返納してきらり号を利用するようになると思います。先のご事はわかりません。きらり号の利用者を増やすのは社協が把握している人が利用するから情報共有するとよい。循環バスとの絡みが良く分からないので答えにくいです。
早朝・夕方・夜 20 時まで 休日も運行して欲しい
地区別に配車（してほしい）
きらり号の午後の時間帯の延長を希望する

循環バスなどの既存の交通手段に対して【回答件数：7 件】
循環バスの維持
循環バスの充実。
バスの乗降時間を密にして欲しい
循環バスの充実を願います。
循環バスの充実を願います。
鳥取市のくりの様な形態
循環バス利用して病院通院している。普段は家族が乗せてくれる。今は特段不便はないが 5 年 10 年後には高齢化が進み足腰が弱くなって外に出れなくなったら不安です。最低、循環バスは必要です。

移動手段全般への意見や移動施策に対するアイデア・考え【回答件数：14件】
受益者である商店、病院、自治体等が費用負担を行い、乗車賃無料の自動運転タクシーを過剰量走らせ、一定の乗客数が獲得できた後に有料化し困窮者には自治体が支援する。
主な事業所（マーケット、病院、行政機関、商店）が協賛して運用するような交通機関の確立を望む。
有償運送とならない範囲の対価（ガソリン代、時給など最低限）で、店舗のスタッフなどが直接送迎できる仕組みができるとよいのだが。または、NPOや商店会などの特定の
1台の車両ではなく複数の管理された車両（店舗所有の軽バン、乗用車など）が、利用できる方法はないだろうか。
きりり号のような交通か地区での共助交通組織。
商店、病院、企業、利用者で運行できるようにしていく。
交通手段の事は今の考え方としては、みんなが協力して盛り上げる事が肝心だと思う。
自動運転のバス、タクシー
道を走っている自家用車に相乗りできるような制度を作ってほしい。
公的支援が必要
地区内での店舗確保と地区内団体による交通手段の運用。免許返納後は是非とも利用したいです。
自動運転車の普及
身近な所で知り合い同志が助け合えれば良いと思います。
住民が地域で生活できるような交通手段にして欲しい

その他（移動に関する状況や必要性等）【回答件数：17件】
遠くに買い物に行きません。医者も生協も車なので不便を感じません。
将来は心配だがJRを使うか。買物、重い物は通販している。
同居しているので、今、必要性を感じない。
どうしたらいいのかわからない。
あと10年したら心配になるかもしれないが、今は考えた事がなかった。運転ができる事で農業もできている。免許返納は今の所考えられない。
同居の義両親、車ででかける。70代 JRも近い。自分たちが近くに居るので不自由はないと思う。
実家の親も一人で外出できないが、家族が送迎している。心配で一人で出かせないようにしている。
考えたことがない。
深く考えたことがない。
家族の手助けでなんとかできそう。
一人暮らし、今は車に乗れるが将来は心配している。
今は自分で車に乗っていますが、将来的に足となる物が必要。
身近な問題としてこれから考えていくべき時期だと思う
エスマート移動販売車が週1回、温泉病院は送迎あり、社協も送迎あり、必要時には知り合いが乗せてもらっている
一人暮らしだが娘家族、趣味仲間に乗せてもらっている。移動販売週1が来る。買い物支援がありがたいです。安くて手軽に乗せてもらえるような手段をお願いしたい。
エスマート移動販売車が週1回、温泉病院は送迎あり、社協も送迎あり、必要時には知り合いが乗せてもらっている
一人暮らしだが娘家族、趣味仲間に乗せてもらっている。移動販売週1が来る。買い物支援がありがたいです。安くて手軽に乗せてもらえるような手段をお願いしたい。